

# 21 seiki kyouiku forum

弘前大学21世紀教育センター

第 8 号 2013

## 特集論文

- 1 ポートフォリオからアクティブ・ラーニングへ向けた教育活動 鬼島 宏, 田中正弘, 藤崎浩幸, 中根明夫

## 特別寄稿

- 13 アクティブ・ラーナーを育てる能動的学修の推進におけるPBL教育の意義と導入の工夫 中山留美子

## 論 文

- 23 1) イギリス高等教育における学外試験委員制度の見直し 田中正弘  
31 2) 臨床実習開始時に行う「SD章 (Student Doctor章)」授与式による医学生へのプロフェッショナリズム教育の試み  
加藤博之, 松谷秀哉, 大沢 弘, 若林孝一, 藤 哲, 中路重之  
39 3) 聴き取りと作文練習を絡めることで、中級英語学習者の作文技能の向上を 上松 一

## 講演会及び研究集会の記録

- 45 1) 教育分担者としてのティーチング・アシスタント ―平成23年度弘前大学TA研修会の報告を兼ねて―  
(『21世紀教育センターニュース』より転載) 田中正弘  
47 2) 第13回(平成24年度)弘前大学FDワークショップ(『21世紀教育センターニュース』より転載)  
50 3) 弘前大学高大連携シンポジウム「国際化とは何か?―高校が望む国際化、大学を目指す国際化―」  
(『21世紀教育センターニュース』より転載)

## その他

- 53 1) 平成24年度前期・後期 21世紀教育に関するアンケート(『21世紀教育センターニュース』より転載)

## 刊行・投稿規定・執筆要項

# 『21世紀教育フォーラム』（第8号）

## 目 次

### 特集論文

ポートフォリオからアクティブ・ラーニングへ向けた教育活動	鬼 島 宏, 田 中 正 弘, 藤 崎 浩 幸, 中 根 明 夫	1
------------------------------	-------------------------------------	---

### 特別寄稿

アクティブ・ラーナーを育てる 能動的学修の推進におけるPBL教育の意義と導入の工夫	中 山 留美子	13
--	---------	----

### 論 文

1) イギリス高等教育における学外試験委員制度の見直し	田 中 正 弘	23
2) 臨床実習開始時に行う「SD章（Student Doctor章）」授与式による 医学生へのプロフェッショナリズム教育の試み	加 藤 博 之, 松 谷 秀 哉, 大 沢 弘, 若 林 孝 一, 藤 哲, 中 路 重 之	31
3) 聴き取りと作文練習を絡めることで、中級英語学習者の 作文技能の向上を	上 松 一	39

### 講演会及び研究集会の記録

1) 教育分担者としてのティーチング・アシスタント —平成23年度弘前大学TA研修会の報告を兼ねて— （『21世紀教育センターニュース』より転載）	田 中 正 弘	55
2) 第13回（平成24年度）弘前大学FDワークショップ （『21世紀教育センターニュース』より転載）		57
3) 弘前大学高大連携シンポジウム 「国際化とは何か？ —高校が望む国際化、大学が目指す国際化—」 （『21世紀教育センターニュース』より転載）		60

### その他

1) 平成24年度前期・後期 21世紀教育に関するアンケート （『21世紀教育センターニュース』より転載）		63
--	--	----

刊行・投稿規定・執筆要項		69
--------------	--	----

## 『21世紀教育フォーラム』刊行及び投稿規定

1. 本『フォーラム』は、高等教育に関する実践的・学術的研究の成果を公表することを目的に刊行する。
2. 発行は原則として年1回、3月末とする。
3. 原稿の締切は概ね1月上旬とする。
4. 論文の本文は横書きの和文又は英文を原則とする。
5. 各論文の長さは図表等を含めて、400字詰め原稿用紙に換算して50枚以内とする。
6. 原稿の作成に際しては所定の執筆要項（別掲）に従うものとする。
7. 翻訳・書評・提言に関しては編集委員会で決める。
8. 校正は原則として著者が行い、3校までとする。
9. 別刷を希望する場合は、投稿の際に必要な部数を申し出る。経費は著者負担とする。
10. 本『フォーラム』に掲載される内容は、センターのホームページで公開される。

この規定は、平成17年11月から施行する。

この規定は、平成23年7月から施行する。

## 『21世紀教育フォーラム』執筆要項

1. 原稿は、手書きの場合字数が明確になるよう原稿用紙に記載する。また、パソコン等を用いる場合にはA4版の用紙に印字する。原稿は3部提出する（3部のうち2部はコピーでかまわない）。  
なお、パソコン等による原稿には、使用したハードウェア及びソフトウェアを明記した記録媒体を添付することが望ましいが、電子ファイルでの提出も可とする。
2. 原稿には論文題名、著者名及び所属が和英両語で記載されていなければならない。
3. 本文の前に要旨（Abstract）及びキーワードを置く。要旨は和文の場合には400字以内、英文の場合には120語以内とする。キーワードは数語以内とする。
4. 文献の引用は原則として本文中の該当箇所の右肩に片括弧付きの番号で表示し、出典は本文末尾に一括して記載する。その際、雑誌の場合は著者名、論文等の題名、掲載誌名、巻・号、ページ、発行年を、また、単行本の場合は著者名、書名、出版社名、ページ、発行年を記載することを原則とする。
5. 印刷に当たって指定したい事項（字体、下線、図表の挿入箇所など）は原稿内に朱書するなどして明示する。
6. 図表（写真を含む。白黒のみ）はなるべく少数にとどめ、本文原稿中に挿入することを避け、原則としてひとつずつA4版程度の白色台紙に貼り添付する。なお、図表の表題、指定事項等は台紙の端に記載する。また、図表は直接製版できるような明確なものとし、図中に文字などを写植する必要がある場合には明確に指示する。
7. 原稿の提出に際しては所定の「投稿申込書」を添付し、編集委員に確認を受ける。

## 『21世紀教育フォーラム』編集委員会

編集委員長 田中正弘 (21世紀教育センター高等教育研究開発室)  
編集委員 小岩直人 (教育学部)  
祐川幸一 (保健学研究科)  
斉藤利男 (教育学部)

### 編集後記

『21世紀教育フォーラム』(第8号)を発刊することができました。本号は文部科学省特別教育研究経費として採択された「ティーチング・ポートフォリオを活用したFD活動の展開」(H20～H24)の成果を特集する号となりました。鬼島他の論文「ポートフォリオからアクティブ・ラーニングへ向けた教育活動」は5年間の活動成果のまとめに終始せず、次なるステップとして、アクティブ・ラーニングの推進を宣言する内容になっています。加えて、中山氏(三重大大学)にご寄稿頂いた論文「アクティブ・ラーナーを育てる」で、アクティブ・ラーニングの推進の一環として、PBL教育の意義と導入の工夫が紹介されています。

本号が、ティーチング・ポートフォリオの継続的な発展と、アクティブ・ラーニングの推進に少しでも役立つのであれば、これほど喜ばしいことはありません。

(田中正弘)

### 『21世紀教育フォーラム』第8号

---

発行	弘前大学21世紀教育センター
編集	『21世紀教育フォーラム』編集委員会
	連絡先(編集委員長) 〒036-8560 青森県弘前市文京町1
	21世紀教育センター高等教育研究開発室
	田中正弘
	電話: 0172-39-3920
	E-Mail: masatana@cc.hirosaki-u.ac.jp
発行年月日	2013年3月30日
印刷・製本	やまと印刷株式会社

---

# 21<sup>st</sup>

# Century Education Forum

Vol. 8 2013

Center for 21st Century Education Hirosaki University

## ARTICLES

- 1 Educational Development: From Portfolio to Active Learning  
Hiroshi KIJIMA, Masahiro TANAKA, Hiroyuki FUJISAKI, Akio NAKANE
- 13 Facilitating active learning by the introduction of problem-based/project-based learning (PBL)  
Rumiko NAKAYAMA
- 23 The Reconsideration of the External Examiner System in British Higher Education Masahiro TANAKA
- 31 Teaching professionalism in undergraduate medical education using Student Doctor license.  
Hiroyuki KATO, Hideya MATSUTANI, Hiroshi OSAWA, Koichi WAKABAYASHI, Satoshi TOH, Shigeyuki NAKAJI
- 39 Improving Intermediate Learners' Writing Skills: Combining Listening and Writing in Teaching English  
Hajime UEMATSU

## CONFERENCE/FACULTY DEVELOPMENT MINUTES

- 45 The Teaching Assistant as an Educational Assignment Person  
—Serve as the Report of the Hirosaki University TA Study Session in 2012—  
(The 21<sup>st</sup> Century Education Centre News, Vol.21, March 2013) Masahiro TANAKA
- 47 13<sup>th</sup> (2012) Hirosaki University FD Workshop  
(The 21<sup>st</sup> Century Education Centre News, Vol.21, March 2013)
- 50 Symposium about the Cooperation of a High School and a University in Hirosaki University  
“What is internationalization?—What does internationalization mean to high schools? What are the internationalization goals of universities?—”  
(The 21<sup>st</sup> Century Education Centre News, Vol.21, March 2013)

## OTHER TOPICS

- 53 The Results of the Student Questionnaire on 21<sup>st</sup> Century Education  
(The 21<sup>st</sup> Century Education Centre News, Vol.21, March 2013)